



同友会の活動
はこちらの
QRコードか
らご覧いた
できます▶



2022年
11
月号

発行/群馬中小企業家同友会 〒371-0013 前橋市西片貝町1-300-5 ルアン第二ビル4F TEL 027-232-0001 FAX 027-232-0666 E-mail g-douyu@po.wind.ne.jp

社会に開かれた教育課程に ついて学ぶ、考える

第4回 社会連携シンポジウム



十月八日(土)、共愛学園前橋国際大学(Zoom併用)を会場に、共同求人委員会設営による「第四回社会連携シンポジウム」を開催。学校側からは県内各地の高校教諭や大学・短大関係者、高校生・大学生など約四〇名、企業側からは経営者・幹部社員など約三〇名、総勢約七〇名が参加し、「社会に開かれた教育課程について学ぶ、考える」をテーマに、それぞれの立場から率直に意見を交わしました。過去二年はオンライン開催だったため、現地に集まったの開催は二〇一九年以来。

第一部・報告会では、学校側から群馬県立吉井高等学校・小林教諭、共愛学園前橋国際大学・奥山教授、新島学園短期大学・岩田学長の三名が登壇し、地元中小企業と連携した授業づくりの事例、その意義や成果などを報告。実際に授業を受けた学生の言葉として「より深く、より密に社会とつながることができた」「中小企業のイメージが変わった」「仕事と真摯に向き合う社員さんの姿に感動した」「自分の考え方、生き方を見つめ直すことができた」などが紹介されました。また、企業(同友会)側からは(株)石井工機・石井氏、プロファ設計(株)・杉山氏がパネラーとして登壇し、

文部科学省教科調査官・飯塚氏のリードのもとで「学校との関わりの中で得られたもの」が率直に語られました。

第二部・グループ討論では、「より良い社会をつくるために、私たちはどう協働できるか?」をテーマに意見交換。教育現場に存在する困りごと、地域に根差す中小企業が抱え

る課題、さらに双方からの歩み寄りの提案や協働に向けた具体策など、各テーブルで活発な意見が交わされました。

参加者アンケートには「協働は、雑談を通しての互いの関係づくりから」「企業・学校・学生が同じ空間で話し合えたのは貴重な宝物」「連携によって、それぞれがメリットを享受できるように意識したい」「このシンポジウムの継続が、地域社会をより良くしていく」などの感想や意見が綴られていました。

共同求人委員会では、今後も様々なアプローチで教育機関との協力体制を築き、地域社会が連携して若者を育てる活動を進めていきます。ぜひ多くの皆さんのご協力をお願いします!



初心に戻ってステップアップ 2022伸び盛り社員研修会

十月十七日(月)・十八日(火)の二日間、伊勢崎市文化会館を会場に、入社三〜五年目の伸び盛りな若手社員を対象とした「二〇二二伸び盛り社員研修会」を開催。受講生・同席者(経営者側)合わせて約三〇名が参加し、将来の会社を背負って立つであろう若手社員の役割、主体性とモチベーションを持つて働くことの意義などを学びました。

一日目のテーマは「会社における自分の存在価値を見直す」。アイスブレイクや研修の目的確認・目標設定に始まり、会社への「期待／貢献シート」のワークや「二七〇度サーベイ」を使った自己分析、「今後のキャリア形成」の講義、随所を実施したグループ討論などを通して、自己成長のヒントを掴んでいきました。

二日目のテーマは「今後の仕事への向き合い方を考えよう」。前日の自己分析を踏まえ、「社内での自分のあり方、働き方」「他者との関わり方」を考える二種類の講義&ワーク、二日間の振り返りを通して、自立型社員へのステップを確実なものにしていきました。また、研修会の最後には「今後の決意表明」を受講生全員が力強い言葉で発表しました。

受講生が記した研修レポート&経営者側の感想(抜粋)を左記に掲載します。

〔研修生〕

- 積極性と自己発信を目標に業務に取り組んでいきたい。
- 売り上げ目標を達成するために主体的に行動して前向きな思考で取り組みます。
- 相手の気持ちを考えつつ、的確にはっきりと指示が出せるようになりたい。
- 強みは伸ばし、弱みは克服し、自分らしく楽しく、仲間が求



める事を行い、自分の為、仲間の為、会社の為に成長します。

〔経営者〕

- 自分の強み・弱みを客観的に理解し今後の働き方に生かせる研修になったと思う。
- 自分自身を再確認し、周りからの期待を知り、今日からの自分は何に挑戦したら良いのか考え、そして今日から行動してくれることに期待をしています。
- 自身の固定観念や価値観を見直すには、他者からの意見や価値観を受入れることから始まると思うので、研修会に参加する企業が増えて欲しい。

結果に繋がるブランディングと広報戦略

高崎支部9月例会



九月二十日(火)、イベント高崎(Zoom併用)を会場に「高崎支部九月例会」を開催。企業のトータルブランディングなどを手掛ける株式会社Sunset films、代表取締役・井埜涼太氏(高崎支部)が「結果に繋がるブランディングと広報戦略」をテーマに報告しました。

社のブランディング戦略を紹介しました。報告のまとめでは「今後も自分たちの掲げたブランドミッションを軸に独自の価値を創り出し、顧客の将来的な利益に繋げていきたい」との決意を語りました。

報告後は「自社のブランディングをどう考えるか?」をテーマにグループ討論を実施。参加者アンケートには「新しい考えや気づきがあり、早速、自社の広報活動に取り入れたい」「時代に合わせた広報戦略や各種ツールの活用を必要性を痛感した」「報告者の生き様、経営姿勢に大変刺激を受けた」などの感想が綴られていました。

他支部との交流で新たな視点を発掘する

東毛の支部合同例会

伊勢崎・桐生・太田の東毛三支部では、九月二十二日（木）、ティアラグリーンパレス（大塚氏／太田支部）を会場に合同例会を開催。支部の垣根を超えた学び合いを目的に企画された本例会は「他支部との交流で新たな視点を発掘する」と題し、三支部長によるパネルディスカッションやグループ討論などが行われました。

小淵警備保障、代表取締役・小淵豊太郎氏（伊勢崎支部）が務め、それぞれの支部の特徴や支部長を引き受けた経緯、各社の経営課題などを聞き出しました。

支部の特徴としては「製造業・サービス業・飲食業など、会員の業種バランスが良く、様々な視点から幅広い学びが得られる／周藤」「会員間取引が活発で横のつながりが強い。また、前

パネルは、税理士事務所s ky、所長・小林潤氏（伊勢崎支部長）、榎ハセイプランニング、専務取締役・周藤亮佑氏（桐生支部長）、(有)神保商会、専務取締役・神保豊氏（太田支部長）の三名。ファシリテーターを(株)

向きの会員が多い／神保」「先輩会員の経営者としてのあり方や立ち居振る舞いなどが勉強になる。懇親会では政治経済の話題が尽きない／小林」など、それぞれの支部長が感じている印象を語りました。

「支部長を受けるデメリットは？」との質問については、三名とも「プレーヤーとしての時間を取られるのは正直痛い」という意見で一致しましたが、「だからこそ効率を意識した仕事の進め方や予定の組み方が学べている」と、前向きな意見を付け加えました。

小淵氏の軽快かつユーモアを織り交ぜた進行で練り広げられ



たパネルディスカッションは、真面目な話題のなかにも随所に笑いがちりばめられ、あつと言

う間に時間を迎えました。その後のグループ討論では、

三支部の会員をバランス良く配置したグループ編成で活発な意見交換が行われ、それぞれが新たな視点や経営課題解決のヒントを模索しました。

参加者アンケートには「他支部との交流は新鮮で、いつも以上に例会を楽しめた」「各支部の特徴や会員の同友会に対するニーズの広さを知ることができた」「今後も定期的に合同例会を企画してほしい」と言った感想が綴られていました。

今どきの若者たち、その傾向と対策

渋川吾妻支部9月例会



九月二十六日（月）、渋川市中央公民館を会場に「渋川吾妻支部九月例会」を開催。ジョブカフェぐんまの運営、人材採用・定着・育成支援などを行う(株)ワークエントリー、代表取締役・加藤尚氏（高崎支部）が「今どきの若者たち、その傾向と対策」採用と定着のヒント！と題して報告しました。

加藤氏は、内閣府による「子供・若者白書」の各種アンケート調査を示しながら、「家族・友人との繋がりが深い」「就職における親の影響力の強さ」「SNSの普及により口語表現が苦手」「プライベートの充実を強く意識」など、自身が業務を通

して実感している若者の傾向をエピソードを交えて紹介。また、ほとんどの企業が「人材の採用・育成」を課題に挙げるにも関わらず「企業側の検証・対策は出ていないのが現実」とし、その解決に向けた具体例を提案しました。

報告後は「自社の人を雇うときの考え方」をテーマにグループ討論を実施。「しっかりと採用面接の構成・基準を考えることが肝要」「経営理念への共感度を何より大事にしたい」「一社一社違うので、その会社にあったスタイルを確立すること」など、活発な意見が交わられました。

観光産業の夜明けは近い

沼田支部9月例会

沼田支部では、九月二十八日(水)、利根沼田文化会館を会場に支部例会を開催しました。伊香保にて水沢うどんの歴史を守る「うどん茶屋万葉亭」を運営する(有)牧商事、常務取締役・牧幸弘氏(同支部所属)が、「観光産業の夜明けは近い」と題して、コロナウィルス感染拡大の影響が直撃した飲食・観光産業について報告しました。自己紹介に続き、コロナ禍に

おける世界と日本の経済比較。

また、国外渡航者の推移を時系列で紹介し、今後の予想される流れも合わせて分析し解説しました。さらに、今後の観光業がターゲットとすべき「Z世代・ミレニアル世代」に加えて、旅

をしながら働く「デジタルノマド」と言われる働き方など、コロナ以前とは違う視野を広げた新たな観光産業の必要性を訴えました。



参加者アンケートには「Z世代・ミレニアル世代・デジタルノマドなど、今後目を向けなければいけない対象に気付けた」「情報を集め、分析し、必要な対策を考える事が大切」といった感想が記されていました。

人材育成の固定観念を壊して 真の共育を実現しよう

前橋支部9月例会



前橋支部では、九月二十一日(水)、アメイジンググレイス前橋(萩原隆史氏)を会場に、同友会の各社員研修会でメイン講師を務めるN's Education、代表・高屋敷奈央氏(同支部所属)が講師を務め「人材育成の固定観念を壊して真の共育を実現しよう」と題して講義とワークを行いました。高屋敷氏は、チームビルディ

ングの考え方が同友会の「共育」と共通する部分が多いことを紹介したうえで講義を進めました。ワークでは、二人一組でペアになり「ティーチング/コーチング/ラーニング」の違いを参加者が体験することで、それぞれの教え方に適した対象者やタイミングなどを学びました。参加者アンケートには「体験型の学びは楽しいうえに吸収力が違う」「ティーチング、コーチング、ラーニングそれぞれの使い分けの重要性を学んだ」「まず安全な場の提供が必要」といった感想が記されておりました。

DXその前に...

富岡安中支部

富岡安中支部では、九月二十九日(木)、富岡公民館(Zoom併設)を会場に支部例会を開催。Excelシステム作成、PC導入保守、IT業務委託などを行う、ヒロキITサポート・代表、廣木克之氏(同支部所属)が「DX、その前に...」と題して報告しました。

廣木氏は、DXを「ITを使って変化を起こし、売上や利益を伸ばす仕組みをつくること」と解説し、言葉全体の印象から難しく捉えて一歩が踏み出せない中小企業が多いことを紹介しました。そこで①アナログデータをデジタル化する「デジタルゼーション」、②業務をデータで連携させる「デジタルイゼーション」、③新しい価値で事業変革を目指す「DX」、三つのステップで段階的に取り組む方法を提案し解説しました。



参加者アンケートには「DXを推進しなければ未来はない。スピード感を持って取り組みたい」「DXの先どんな未来があるのか見てみたい」「苦手意識を持っていたが、自社でやりやすいところからという言葉でやってみようと思えた」といった感想が綴られていました。

会員たしん

同友会のホームページで
会員検索できます。

【11校合同で学園祭】

中央カレッジグループ
中央カレッジグループ（代表理事・中島利朗氏／前橋支部所属）の専門学校など11校による合同学園祭が23日、高崎市のピエント高崎で開かれた。学生の専門性を生かしたヘアメイクショー、学習成果の展示、eスポーツ大会などに多くの人が訪れた。

同グループの創立80周年を記念して初めて企画。ICT（情報通信技術）、デザイン、農業を学ぶ他、歯科衛生士、柔道整復師など専門職を目指す学生が28ブースを設置した。
[9 / 24付上毛]

【絵、習字を縮小加工 フォトフレームに】

（株）シェリー
プラスチック製品製造の（株）シェリー（代表取締役社長・清塚徹氏／渋川吾妻支部所属）は、子どもが夏休みに制作した絵や習字などを小サイズにして飾るフォトフレームの販売を始めた。スマートフォンなどで撮影した作品のデータを同社がカードサイズ（8.6cm×5.8cm）に加工する。カードには光沢があり、作品を引き立てるような仕上がりになる。

同社は「思い出を形に残し、いつまでも家族で眺めて家族の絆を強めることができる。作品を飾ることで子どもたちは自信と幸福感が持てる」としている。
[9 / 24付上毛]

【ランドセルカバー】

加栄レース（株）
カーテンや服地製造などを手掛ける加栄レース（代表取締役・佐藤真人氏／桐生支部所属）はランドセルカバーを発売した。はっ水性能付きで雨や傷、汚れを防ぐ。ランドセルカバーを手掛けるのは同社にとって初めてで、落ち着いた色のデザインを採用し、高級ランドセルを選ぶ層のニーズを狙う。

商品名は「PETITPSYCHE（プチプシケ）ランドセルカバー」。水着の素材を使っており、はっ水性や伸縮性に優れている。収納ポケットが伸びるので、体育着や上履きなどの荷物をしまうことができる。
[9 / 29付日経]

【アレルギー、防災、住の展示会】

（有）秀水園
アレルギーと防災、住環境をテーマにした展示会「みんなのEXPO 2022」（日本環境保健機構主催）が29日、渋川市伊香保町のいかは秀水園（有）秀水園、取締役社長・高尾由希子氏／渋川吾妻支部所属）で開かれた。今年で8回目のイベントで例年は都内を会場としているが、初の地方開催となった。全国から約40の企業と団体が出展。業界関係者によるセミナーなども開かれた。

昨年度に「ミニEXPO」と称した縮小版を同旅館で開いたことから、今回の開催につながった。同旅館の高尾社長は「旅館は災害時には福祉避難所にもなり、今回のようにBtoB（企業間取引）での経済効果を生むイベントの場ともなる」と手応えを語った。
[9 / 30付上毛]

【技術を生かした多機能グリル】

（有）山崎製作所
新型コロナウイルス感染拡大に伴い、密を避けられるレジャーとして人気が高まったバーベキュー。グリルなどの道具にこだわりたい人が増える中、精密板金の（有）山崎製作所（代表取締役・山崎将臣氏／高崎支部所属）は、加工技術を生かしてアウトドア用品事業に参入した。安全性や手入れのしやすさを追求した多機能グリル「Brahma（ブラフマー）」を11月に発売する。

11月19、20両日に高崎市問屋町のピエント高崎で開かれる「たかさき産業祭」で先行販売する。数量限定で3万3千円（イベント特価）。
[10 / 2付上毛]

【三井物産系と提携】

利根郡信用金庫
利根郡信用金庫（理事長・坂井隆氏／沼田支部所属）は、三井物産の子会社で二酸化炭素（CO2）排出量の可視化支援を手掛けるe-dash（イーダッシュ・東京）と業務提携した。イーダッシュを取引先企業に紹介し、脱炭素化に向けた取り組みを支援する。

同サービスでは、CO2排出量の削減方法の提案や報告書の作成支援も行う。同信金は提携の狙いについて「企業のSDGs（持続可能な開発目標）への注目度は高まっており、脱炭素化へ向けた課題解決のサポートを強化するため」としている。
[10 / 4付日経]

【自慢の食をPR】

茂木食品工業（株）
地方銀行49行の取引先が出展する食品商談会「地方銀行フードセレクション」が12日、東京・有明の東京ビッグサイトで始まった。

群馬銀行の取引先は、クラフトビールやギョーザ、和菓子や漬物などさまざまな食を紹介。茂木食品工業（代表取締役・茂木進氏／富岡安中支部所属）はこんにゃくと大豆で作ったヘルシーなハンバーグ、（有）高崎クエイル（代表取締役・串田幹雄氏／高崎支部所属）は、栄養価を高めたウズラの卵など、自慢の逸品をアピールする。

商談会はスーパーやコンビニ、商社などの食品担当バイヤーとの商談の場を提供し、取引先の販路拡大を後押しすることが狙い。地方銀行でつくる実行委員会が毎年開いており、今回は17回目。
[10 / 13付上毛]

【事業承継や創業支援ファンド】

しのめ信用金庫
しのめ信用金庫（理事長・横山慶一氏／富岡安中支部所属）は18日、成長企業への投資などを手がける信金キャピタル（東京）と地元企業を支える共同ファンド「しのめ未来創造ファンド」を設立した。事業承継・創業・成長の支援を目的に、地域経済活性化につなげる。信金キャピタルが各地の信用金庫とファンドを設立するのは全国6例目、関東甲信越では初めて。

ファンド総額は3億円。投資を通じ、中小企業や小規模事業者に継続的で深度のある支援を提供する。存続期間は10年間。事業承継、創業に取り組む会社のほか、新たな業種や成長分野などの有力な担い手となることを見込まれる会社を投資対象とする。
[10 / 19付上毛]

【事業所移転】

エアムーブ住宅（株）、代表取締役・深川修氏（前橋支部所属）は、この度、下記のとおり事業所を移転しました。
〒371-0847 前橋市大友町3-8-7 東伝ビル1F

【事業所移転】

（株）Philosophy Arts、代表取締役・猪瀬慶久氏（高崎支部所属）は、この度、下記のとおり事業所を移転しました。
〒370-0018 高崎市新保町16 NAGAIテナント1階A号室

【事業所移転】

（株）GCS、代表取締役・大友利一氏（桐生支部所属）は、この度、下記のとおり事業所を移転しました。
〒376-0011 桐生市相生町3-326-9-A

【会員登録変更】

日本ハイコム（株）、取締役部長・高橋進也氏（前橋支部所属）は、この度、「代表取締役・佐藤康明氏」に会員登録を変更しました。

【組織 & 登録住所変更】

（株）ぐんたね沼田営業部、取締役副社長・安藤尚武氏（沼田支部所属）は、この度、下記のとおり組織 & 登録住所を変更しました。
（株）ぐんたね沼田店
〒378-0005 沼田市久屋原町15-34

限りある資源を、次世代へ。
株式会社エスティビー
Zero Emission Stability Topline Business Co., Ltd.
経営理念（存在意義・目的）「**絶やさぬために**」
私たちは、動脈・静脈の循環型物流力で、人と社会の生命活動を支え続けます。
〒379-2123 群馬県前橋市山王町1-19-14 TEL: 027-212-3312 FAX: 027-266-8288

軽量鉄骨システム建築 プレハブハウス

用途に合わせ自由設計、コスト削減（事務所、店舗、倉庫、他）

プレハブパネル工法は規格部材を工場生産 経済性に優れ、短工期

株式会社 三栄工業

〒378-0002 群馬県沼田市横塚町 896-2

TEL. 0278-20-1110 FAX. 0278-22-2102

URL <http://kk-sanei.net/>

第6回
理事会報告

日時 十月四日(火)

※今回も同友会事務所とオンライン併用のハイブリッド開催となりました。

出席者(順不同・敬称略)
正副代表理事/田村、町田、戸塚、杉崎、阿久戸、理事/本多、小林、榎原、佐藤、渡辺、小池、齋藤、岡田、布施、阿久戸、橋田、村岡、中西、関口、浅井、小坂橋、事務局/阿久澤、竹内(役員計二十六名)

【議事】

金子沼田支部長が議長をつとめ、町田代表理事挨拶のもと、第六回理事会開会。

I. 報告連絡事項

1. 各支部・部会・委員会等の案内報告

各組織担当者より、今後の計画や活動報告、依頼事項などがありました。

2. その他

①共同求人・社員教育合同委員会の参加報告が杉崎副代表理事よりありました。

②関東甲信越ブロック代表者会議の参加報告が町田代表理事よりありました。

③第五〇回青年経営者全国交流会(兵庫)の参加報告が周藤桐生支部長よりありました。

II. 審議・承認事項

1. 経営研究集会の役割分担・プログラム等について

榎原実行委員長より、二〇二二経営研究集会の役割分担・プログラム等について提案があり、こ

れを承認しました。また、再度の参加協力依頼と各支部へのグループ長候補選出依頼がありました。

2. 新年度の理事選考スケジュールと推薦依頼について

新年度の理事選考スケジュールが確認されるとともに、各組織へ理事候補者の推薦依頼がありました。

3. 入退会者承認と仲間づくりについて

前回理事会以降の入会者一名、退会者二名を承認。会員数は五三三名となりました。

III. 意見交換・その他

1. 意見交換

町田代表理事の問題提起をもとに「半期を終えて、重点方針の進捗確認と今後の活動について」をテーマにグループ討論を行いました。

2. 第七回理事会の開催確認

次回理事会を左記の通り開催することが確認され、議長選出は渋川吾妻支部に依頼しました。

■日時/十一月一日(火)

■会場/同友会事務所

+ウエブ(併用)

新会員
ご紹介

10月度常任理事会承認
会員名簿追加録(順不同・敬称略)

企業名・役職・氏名・生年・所在地・電話・FAX・業務内容・趣味・紹介者

貫井鉄工

〒373-0015 太田市東新町209-2
TEL: 0276-55-2007
FAX: 0276-55-2008
金属加工、溶接
バイク

【紹介者/岩崎 真】

この度入会いたしました貫井と申します。諸先輩方から学び、良い会社を目指していきたいと思っております。これからよろしくお願ひいたします。



代表 貫井 克哉
S54年生

太田支部

1. 経営研究集会の役割

分担・プログラム等につ

いて

榎原実行委員長より、

二〇二二経営研究集会の

役割分担・プログラム等

について提案があり、こ

アルミ精密部品の切削加工メーカー
株式会社 エーピーエム

充実した設備と長年培った確かな技術力で
お客様のご要望にお応えします!

〒373-0847 群馬県太田市西新町103-2
TEL0276-30-4058 FAX0276-30-4059
URL: http://www.apm-f.com E-mail: fuse@apm-f.com

今お使いの会計ソフトを
「未来を見る経営羅針盤」へ進化させる!!

クラウド予算実績管理ツール
YOJITSU[®]
https://yojitsu.net/



同友会 高崎支部会員 株式会社 シスプラ ☎ 0120-638-377

環境を思う、未来を想う
あらためて誓う
上武印刷

優れた環境適応性。
より高精細で美しい仕上がりに

「水なし印刷」システム

「水なし印刷」は、湿し水を使用せず有害な廃液を0にし、その結果CO₂を削減します。環境への負荷が格段に少ない印刷システムです。

ムダな廃棄物を出さない。

必要な時に必要な部数を

オンデマンド印刷

オンデマンド印刷は、「必要な時、必要なだけ」の印刷でムダがなく、環境面で優れています。また、印刷コストを抑え、納期も短縮できます。

私たちは、環境にも、お客様にもやさしい企業を目指します。

群馬県環境GS認定事業所



上武印刷株式会社

〒370-0015 高崎市島野町890-25

TEL 027(352)7445(代) E-mail eigo@jp-t.co.jp
FAX 027(352)2953(営業) URL http://www.jp-t.co.jp/

